

第3学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 9割の児童が自分の感性に自信をもつことができている。
○ 水彩絵の具を基本に、描画技能が身に付いている。
- 課題** ▼ 全ての児童が自分の感性に自信をもてるようにする。
▼ 新しい描画材や道具の扱いを身に付けさせる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 自分の感性に自信をもち、表現することができる。
- ◇ 自分と友人の感性や発想の違いを認め、価値付け合うことができる。
- ◇ 題材のテーマから、自分の感性を働かせ発想し、表現することができる。
- ◇ 木工工作の用具(のこぎり・金づち等)を適切に扱い、表現することができる。
- ◇ 新しい描画材の特性をいかし、表現することができる。

具体的な改善策

- 毎時間、感性や発想のよさを見つけ、全ての児童に声を掛け価値付けていく。
- ICTを活用し、全体でモニター鑑賞する場面を設け、友人の表現を認め合う意識を醸成する。
- 全ての児童の発想が表現できる題材を、開発・改善し提示する。
- ICTを活用し、木工工作の技能を視覚的に理解させ、安全に実践させる。
- 発想が広がるよう、描画材のポイントや用具を厳選し提示する。

達成目標

- 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- 造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。